SURE 静岡大学学術リポジトリ Shizuoka University REpository

小学校英語活動でのALTの英語発話を分析する

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2012-03-26
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 白畑, 知彦, 石黒, 幸志
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006483

小学校英語活動での ALT の英語発話を分析する

Analyzing ALT's English production at English activities in primary school

白畑知彦¹ 石黒幸志²
Tomohiko SHIRAHATA, Koshi ISHIGURO

(平成23年10月6日受理)

Abstract:

The purpose of this study is to analyze the linguistic performance of a skillful Assistant Language Teacher (ALT), whose name is M, in a foreign language activity (FLA) class at a primary school and demonstrate that he uses just simple English. FLA has become compulsory in the fifth and the sixth grades since the 2011 academic year. It is said that many teachers at primary schools are worrying about this new compulsory subject because of their lack of English abilities: They think themselves that they cannot speak English at all. It should be necessary to remove their anxiety. One of the resolutions is to let them know that even the ALTs do not use 'difficult' English - in fact it is simple and easy. The research of the study shows that M used junior high school level English and communicated with his students skillfully. From the research results, we would like to insist that Japanese teachers can copy M's performances easily: All what they must do is to review English textbooks used at junior high school.

1. はじめに

本稿では、2011年度から全面実施された公立小学校における英語(外国語)活動について取り上げる。研究目的は、第1に、教授技能にすぐれた外国語指導助手(assistant language teacher, ALT)Mの、小学校英語活動における実際の授業での英語発話を分析し、彼がどのような英語語彙、英語構造、英語表現を使用しているのか記述的に明らかにすることである。第2に、Mが使用する英語表現は日本人教師に応用可能かどうか考察することである。本調査の帰結として、抽象度の高い語彙や統語的に複雑な構造を使用しなくても、担任の教諭は中学校の英語レベルで小学校英語活動が実践できることを主張したい。

本年4月、すなわち2011年4月より、全国2万2千校余りの公立小学校の5学年と6学年で、週1時間、年間35時間、「英語(外国語)活動」が全面実施されるようになった。しかしながら、小学校教員に対する多くのアンケート調査結果からも明らかなように、英語活動の時間の実施が小学校の教員の悩みの種となってしまった。³「英語活動をしなくてはいけないので、高学年

¹ 静岡大学教育学部

² 藤枝市立西益津小学校

の担任にはなりたくない」と本気で考えている教員もいるようである。教員が自分の英語能力に不安を抱えている。自分は英語を専門にしてきたわけではないので英語が話せない。発音もひどく、自分の発音を聞かなければならない小学生に申し訳ない、など多くの悩みを抱えることとなった。⁴

その結果、ALTを雇用している市町村区に属する小学校での英語活動では、ALTに任せ切ってしまっているところもある。もし、ALTは英語が話せるから、授業運営を全部やってもらえばよいと安易に考えているのであれば、それは大いに問題である。ALTをうらやむ前に、まず、彼らがどのような英語を使用して授業を行っているのか分析してみることが大事である。自分たち日本人教員が使用できない「高度な英語」を巧みに操っているため、真似ができないのかどうか分析する必要がある。しかし、このような研究はこれまでほとんど行われてこなかった。

ALTが高度な語彙やイデオマティックな表現を多用しているのであれば、小学校の日本人教師が真似することは難しい。しかし、そうではなく、平易な英語表現を駆使して授業を実践しているならば、ALTの英語は私たちが目指すべき模範となれるのではないだろうか。以上の理由により、指導技術にすぐれているALTの英語発話の分析を試みようと考えた。

本稿のデータは、沼津市の「言語教育特区」の拠点推進校として実践を重ねてきた同市立浮 島小学校で撮影されたビデオに基づいている。同小学校で教えている ALT の Marvin さん(便 宜上Mと表記する)の英語発話を分析させていただいた。

本稿の構成は以下のようになる。「はじめに」に続き、2節では静岡県沼津市の「言語教育特区」、そして同市で研究指定校であった同市立浮島小学校での「英語の時間」、そこで教鞭を執るALTのMについて簡潔に紹介する。3節では本稿で分析するデータとその収集方法について述べる。4節では、Mが授業時に発話した語彙と文構造に焦点を当てた分析結果を紹介し、考察を加える。5節は本稿のまとめとなる。分析結果を見て、日本人教師が英語に対する見えない不安や恐れを幾分なりとも取り除くことができれば幸いである。

2. 沼津市における言語教育特区

沼津市は、2005年(平成17年)に「言語教育特区」という特区を文部科学省に申請、認可され、2006年4月(平成18年4月)より「言語科」を市内全域の小中学校で実施し始めた。言語科の目的は「多文化共生社会を生きるために必要な、ことばを使用したコミュニケーション能力の育成」である。家族・地域環境、生育歴を含めたさまざまな文化背景を持つ人間同士のコミュニケーションが円滑に行われるようにするために、相手からの情報を正しく理解し、意思を明確に表明するという情報伝達の力のみならず、文化や人間に対して正しい認識を持ち、相手との共存共栄の関係を構築、維持できるコミュニケーション能力を育成すること」を目的としている。「言語科は「読解の時間」と「英語の時間」に分かれている。「読解の時間」では主に日本語によるコミュニケーション能力の育成をめざし、「英語の時間」では英語(外国語)によるコミュニケーション能力の育成を目指している。つまり、母語と外国語の両方で、ことばを

³ たとえば、ベネッセの調査(2007)や東(2009)がある。

⁴ ただし、本当に英語発音が「下手」かどうかは、客観的に測定したわけではないから、実際のところは 分からない。自分で勝手にそう思い込んでいる先生もいらっしゃるのではないか。

通した人間形成を目指しているのである。このような取り組みは、文部科学省の唱える「生きる力の育成」とも密接に関わって来る。

沼津市の西部に位置する浮島小学校は、2006年度より同市の言語科教育拠点推進校として研究を進めてきた。本稿の第1著者は、言語科の助言者として、開始当初より同校を訪れ、頻繁に「英語の時間」を参観する機会に恵まれた。ALTのMは、2010年度から同校で教え始めた20代のアジア系アメリカ人男性である。彼の授業では、本稿で紹介する「食文化」を始めとし、広くアメリカ文化を子どもたちに紹介してくれている。6

3. 調査方法と分析方法

今回分析対象とした「英語の時間」における英語授業は、2010年6月17日、浮島小学校でおこなわれた1時間(45分間)の公開授業を基にしている。この授業は6年生のクラスを対象に、担任教員(日本語母語話者)とALTであるMとのティーム・ティーチング(TT)の形態でおこなわれた。授業中の大半の発言はMからのものであった。本授業の題材は「アメリカのスナック菓子」についてである。筆者達は、録画された授業のビデオを見ながら、Mの発話のみならず、日本人教師と子供たちの発話もすべて文字化していった。7

全発話のスクリプト完成後、英語の分析を開始した。まず語彙の分析に取り掛かった。M の発話した語彙を、次の13のカテゴリーに分類することにした。すなわち、名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、冠詞、前置詞、接続詞、Wh疑問詞、間投詞、固定表現、助動詞、法助動詞の13種類である。8 次に、そのMの使用した語彙を、中学の検定教科書の中で扱われている語彙の範囲内に属するものかどうか確認する作業を試みた。そのため、『英語指導資料 中学で学ぶ英単語』(開隆堂出版)を利用することにした。9 そして、どれかいずれの教科書に使用されている語彙ならば、「中学生レベルの語彙」と見なすことにした。

第2番目として、Mの発話した統語構造の分析を試みた。発話された英文を13のカテゴリーに分類した。¹⁰ それらは、第1文型 (SV)、第2文型 (SVC)、第3文型 (SVO)、Wh 疑問文、Yes/No 疑問文、命令文、勧誘文 (Let's ...)、接続詞のある文 (つまり、複文)、受動態文、関係代名詞節、一語疑問文、肯定疑問文、法助動詞のある文、である。¹¹

4. 結果と考察

4.1 Mの発話語彙

Mの英語発話分析の結果、彼は45分の授業で299種類の異なる英単語を発話したことが判明

⁵ http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisei/kyouiku/kyouiku/numazushi/kongo.htm

⁶ たとえば、アメリカの自宅をビデオ撮影し、異文化を紹介してくれた時があったのだが、このアイディアは子どもたちのみならず教員からもとても評判が良かった。

⁷この作業は、主として第2著者が担当した。

⁸ ただし、今回のこの分類法が絶対的なものでないことは言うまでもない。

⁹ この冊子は『英語指導資料 中学で学ぶ英単語』である。教科書会社の開隆堂が編集した、中学校の教科書に現れる英単語をデータベース化したもの。今回は、平成14~17年度用に出版された7種類の中学校英語教科書に掲載された英単語とMの発話の中の英単語を比較した。なお同冊子は非売品である。

¹⁰ ここでの分類方法も絶対的なものではないことは言うまでもない。

¹¹ 第4文型 (SVOC) と第5文型 (SVOO) は使用されていなかった。

した。この299語を、上述した13のカテゴリーに下位分類した。まず、表1に「名詞」の結果について載せる。それぞれの表中のカッコ内の数字はMが発話した各単語の頻度である。

表1より、Mは116種類の名詞を発話したことが分かる。そして全体の75%にあたる87語が中学校の教科書に掲載されている単語であった。残りの25%(29単語)には、almond(アーモンド)、avocado(アボカド)、BBQ(バーベキュー)、campfire(キャンプ・ファイア)など、日本語の中に外来語として浸透している語彙が大半を占め、つまるところ、100%近くが「中学生が習う簡単な語彙」で占められていることが判明した。

表2は動詞の結果である。本分析では、現在分詞形、過去形、過去分詞形は単純現在形と分離して載せた。この表より、Mは53種類の動詞を使用していたことが分かる。そして、その内の93%(49単語)にあたる動詞が中学校の教科書に掲載されている動詞であった。今回は食べ物の話がトピックであったこともあるだろうが、be動詞以外では、eat、have、like、makeなど、食べ物と関連が深い日常でよく使用される動詞がこの授業でも使用されていた。

次に、形容詞の結果を表3に示したい。Mは44種類の異なる形容詞を発話した。その内の82%にあたる36個の形容詞が中学校の教科書に出現するものであった。ビデオ録画した本公開授業では「味と食感」についても話し合われたため、関連する語彙であるbitter(苦い)、crispy (パリパリした)、salty (しょっぱい)、spicy (香ばしい)などの表現が頻出した。こういった触感に関する語彙はどの国や文化圏においても日常生活で頻繁に使用されるものである。

表4に副詞の結果を載せる。この表から、Mは23種類の副詞を発話していたことが分かる。そして、それら全てが中学校の教科書に出現していることも判明した。また、Mの副詞の使用は、動詞と対をなして使用している場合がほとんどであった。表5にはMの発話した間投詞を載せる。Mは8種類の間投詞を発話した。その内の7つ(88%)が中学校の教科書に掲載されているものである。表6にはMの発話した成句(set phrases)を掲載する。Mは10種類の成句を発話した。そして、その全てが中学校の教科書に載っている成句であった。"Happy birthday." "Here you are." "How about ~" "Let's ~" "See you." "Thank you." など、中学1年生で習う程度の、非常に一般的な表現ばかりであった。

表7に、Mの発話したその他の品詞:代名詞、冠詞、前置詞、接続詞、Wh疑問詞、助動詞、法助動詞を列挙する。まず、代名詞であるが、Mは15種類使用していたが、その内、everybodyを除いた14種(93%)が中学校の教科書に登場するものであった。 12 また、Mはheと sheを発話しなかった。 13 言うまでもないことだが、冠詞は不定冠詞と定冠詞の両方が発話されていた。前置詞は10種類使用されており、全て『中学で学ぶ英単語』に含まれているものであった。接続詞は8種類発話され、その内、althoughを除く7種類(88%)が教科書に出現するものであった。Wh疑問詞は4種類(How, What, Which, Who)使われていたが、それら全てが『中学で学ぶ英単語』に含まれている。助動詞は3種類(did, do, does)で、法助動詞も3種類(can, may, will)が使用されていた。

以上の結果をまとめ、若干の考察を加えたい。Mは299種類の異なる単語を発話した。その

¹² 中学校の教科書ではeveryoneは出てくるが、everybodyはどの教科書にも使用されていなかった。

¹³ その良し悪しは別として、heやsheなどの三人称の代名詞表現は『英語ノート』では取り扱われていない。

内の85%にあたる255単語が中学生が教科書で学習するレベルの単語であった。それ以外の語彙も、外来語を中心として中学生にとって既知の語彙が大半を占めていることが判明した。これらの結果は、指導技術のすぐれたALTの使用する英単語は、容易で簡単な「中学生レベルの英単語」ということになる。

本稿ではたった1回の授業で発話された語彙しか分析していないのであるから、そこには限界がある。たまたま使用しなかった語彙も多くあるだろう。しかし、そういった限界にもかかわらず、Mの使用した語彙は中学生レベルの容易なものであると言うことに変わりはない。この事実を我々は重く受け止めなければならない。小学校での英語活動を実践する際に、教師は中学生レベルの語彙さえ知っていればそれで十分だということである。我々は、ALTは「難しい」語彙を使用して授業をしていると誤解してはいなかったであろうか。日本人教師は語彙不足だから話せないと思ってはいなかったであろうか。中学校英語の「前倒し的」な授業形態になる必要性はないが、教師が英語活動の時間で扱う単語を学習するために、教師として、もう一度中学校の英語教科書を復習することを強く勧めたい。

表 1. Mの発話語彙(名詞)

名詞	食べ物	almond (1), avocado (3), blueberry (1), squid (2),
(nouns)	foods / fruits	fish (2), food (1), meat (1), nut (1), onion (4),
		sandwich (1), strawberry (1)
	お菓子類	brownie(8), cream(1), cupcake (1), graham cracker
	snacks/sweets	(8), honey (1), jelly beans (2), marshmallow (10),
		pop tarts(1), Pringles(1), smore (34), sunflower
		$\underline{\operatorname{seeds}}(4),$
		cake (1), candy (8), cereal (2), chocolate (11),
		potato chips (15), snack (22), sweets (1), vanilla (1)
	飲み物	<u>coke</u> (2), <u>Dr. Pepper</u> (6), <u>root beer</u> (8)
	drinks	cherry cola (8), cola (4), juice (2)
	数	
	numbers	eight (1), eleven (2), fifty (1), five (1), four (3), nine
		(1), number (4), one (16), seven (1), six (1), ten (1),
		three (10), two (11), zero (2)
	時間・日付	
	time/date	birthday (8), date (1), day (1), June (1), minute (1),
		morning (1), Thursday (1), time (3)
	人間	
	humans	family (2), father (2), friend (1), kid (1), mother (6),
		people (1), player (1)
	スポーツ	
	sports	baseball (1), basketball(1), soccer (2)
	国	
	countries	America (4), English (1), Japanese (1)
	場所	
	places	home (1), house (2), road (1), school (9), station (4)
	設備	bending machine (2), tissue (1), toaster (1)
	equipment	hand (1), paper (2), pencil (2), stick (2), table (1)
37/116 (75%)	自然	
71/110 (1970)	natures	fire (1), tree (1), weather (1)
	余暇	BBQ (6), campfire (1),
	leisure	camp (3), game (1), World Cup (2)
	抽象名詞	<u>bit</u> (1), <u>flavor</u> (4),
	abstract nouns	match (2), opinion (1), question (10), taste (1), way
		(1)
	その他	<u>brand</u> (1), <u>row</u> (1),
	others	breakfast (6), meter (1), me (2), top (2)

表2. Mの使用した動詞一覧

動詞	動作動詞	camping (1), exercise (1), mix (3), review (2),
Verbs	motion verbs ask (2), bring (1), call (1), come (1), drink (1), eat	
		(9), eating (2), finish (2), finished [p.p.] (1), forgot
49/53 (93%)		(1), get (1), give (1), guess (1), like (34), listen (1),
		made (1), make (11), making (1), put (2), raise (1),
		read (3), repeat (1), roast (5), said [p.p.] (1),
		sandwich (2), say (10), share (1), show (1), sit (1),
		sold (1), start (2), stick (1), take (6), think (1), try
		(2), understand (2), use (2), walk (3), want (2),
		watch (2), write (2)
	状態動詞	
	stative verbs	are (7), cover (1), has (1), have (11), is (69), keep
		(1), know (2), was (7)
	•	·

表3. Mの発話した形容詞一覧

形容詞	味・食感	bitter(5), crispy (5), salty (13), spicy (2),
adjectives	tastes/textures	delicious (14), hard (5), hot (4), soft (3), sour (3),
		sweet (14)
36/44 (82%)	国・国民	Canadian (1),
	countries	American (18), Japanese (1)
	数詞	all (1), any (7), first (1), many (8), second (1),
	numeral	seventeenth (1)
	好み	bad (1), best (1), favorite (5), good (24), okay (19),
	liking	so-so (6)
	量・形・色	fat (1), flat (1),
	figures /colors	big (1), little (4), red (2), small (1)
	位置	main (1),
	rank	elementary (3), high (2), junior (1), last (1), next (1)
	その他	left (1), popular (8), ready (1), similar (1), sunny
	others	(1), thirsty (1), young (1)

表4. Mの発話した副詞一覧

副詞	
adverbs	also (1), best (1), down (1), else (3), even (1), finally (1), just (2), last (1),
	maybe (2), most (2), much (1), next (4), no (12), not (6), only (1), out (1),
23/23 (100%)	probably (1), there (1), today (3), too (1), up (1), very (26), yes (9)

表5. Mの発話した間投詞

感嘆詞	huh (1)
interjections	ah (2), oh (6), okay (27), please (11), ready (1), wow (1), yeah (3)
7/8 (88%)	

表6. Mの発話した成句 (set phrases)

成句	
set phrases	a little (9), First of all (1), Happy birthday. (4), Here you are. (10), How
10/10 (100%)	about ~ (11), how to (1), Let's ~ (6), one more (11), See you. (1), Thank
	you. (7)

表7. Mの発話したその他の品詞一覧

代名詞	everybody (3),
pronouns	any (7), anyone (4), everyone (3), I (35), it (56), me (5), my (16), one
<u>-</u>	
14/15 (93%)	(6), that (3), they (3), this (6), we (11), you (39), your (8)
冠詞	
articles	a (6), the (13)
2/2 (100%)	
前置詞	
prepositions	about (2), as (1), at (6), for (4), in (7), like (4), of (3), on (11), to (5),
10/10 (100%)	with (4)
接続詞	although (1)
conjunctions	and (22), because (1), but (2), or (6), so (11), when (6), while (1)
7/8 (88%)	
WH 疑問詞	
WH interrogatives	how (15), what (18), which (1), who (1)
4/4 (100%)	
助動詞	
auxiliary verbs	did (1), do (22), does (1)
3/3 (100%)	
法助動詞	
modal auxiliaries	can (6), may (2), will (6)
3/3 (100%)	

4.2 Mの統語構造の分析

次に、Mの発話した統語構造について分析して行く。分析結果より、45分間の授業の中で、Mは144の発話をしたことが判明した。そして、本稿ではMの発話した統語構造を15のカテゴリーに分類した。まず、「第2文型」の結果から見ていきたい。表8に「第2文型」に関するMの発話を載せた。本授業は「食べ物」についての内容であったため、特に、「It is + 嗜好を表す形容詞」の出現する機会が多かった。

表9にはMの発話した「第3文型」が掲載されている。「I like + (食べ物/飲み物)」の表現は本授業の中心的表現の1つであったため、出現頻度が多くなっている。表10には、MのWh 疑問文の発話が掲載されている。表11にはYes/No疑問文の一覧が挙げられている。表12には肯定疑問文と一語疑問文の使用を載せている。

以上の結果から、統語構造的には、SV、SVC、SVOを使用するだけで十分であることが分かる。受動態、現在完了形、関係代名詞節などの比較的複雑な構造はALTさえも使用しておらず、日本人教師も使用しなくても英語活動ができることも実証された。

表8. Mの発話:第2文型 (S+V)14

第2文型	It's + [noun].	It's June seventeenth.
(SVC)		It's smore.
		It's Thursday.
	It's + [adjective].	It's a little bitter.
		It's (a little) hard.
		It's (a little / very) hot.
		It's good.
		It's okay.
		It's so-so.
		It's (very) delicious.
		It's very popular at camp.
		It's (very) salty (and crispy).
		It's (very very) sweet.
		It was very delicious.
	Dr. Pepper is cola in	n America.
	Smore is very very	popular in America even for breakfast.
	Smores are very po	pular at camp.
	That's flat.	
	The next one is root	t beer.
	This is meat, the fis	sh, the squid.
	This is smore.	

 $^{^{14}}$ 表 8 での文の順番は、M が発話した順番ではなく、アルファベット順に並べ替えてある。表 9 以降も同様である。

表9. Mの発話:第3文型(SVO)

Aft o -t-Itil	(7)		
第 3 文型	I like all snacks.		
(SVO)	<u>I like ~.</u>	I like brownie.	
		I like candy (the best).	
		I like cherry cola.	
		I like root beer.	
		I like sweet.	
	<u>(II)</u>	We have breakfast, sweet.	
	We have ~.	We have brownie.	
		We have many many snack(s).	
	We have smores.		
	I don't like the fish, squid.		
	I exercise basketball.		
	I forgot		
	I think (that)		
	One of the 自動販売機 has Dr. Pepper.		
	We call smores.		
	We eat potato chips, drink cola and watch soccer.		
	We like to mix.		
	We use graham cracker(s).		
	We use marshmallow and chocolate.		
	You put it in	a toaster.	

表10. Mの発話:WH疑問文

WH interrogatives	(I)	How about American candy?	
	How about ~?	How about avocado potato chips?	
		How about BBQ potato chips?	
		How about cherry cola?	
		How about graham cracker?	
		How about "I like chocolate"?	
		How about 'Trike chocolate': How about 'It's delicious'?	
		How about "It's (not) good"?	
		How about sharing the opinion to read?	
	How is it?		
	(II) How's the weather today?		
	What American snack do you like?		
	(III) What day is it today?		
	What did you write?		
	What snack don't you like?		
	What snack do yo	u like?	
	(IV) What's the da	ate today?	
	What's the most p	oopular?	
	Which do you like sweet or salty?		
	Who takes?		

表11. Mの発話: Yes/No疑問文

Yes/No 疑問文	(I) Are you finished?	
	(II) Are you ready?	
	Are you thirsty?	
	(III) Does everybody have one?	
	(IV) Do you have any question?	
	(V) Do you have tissues?	
	Do you know Dr. Pepper?	
	(VI) Do you understand?	
	Do you want to eat?	
	Do you want to try?	
	Is this sweet? Bitter?	

表12. Mの発話:肯定疑問文と一語疑問文

肯定疑問文	<u>(I)</u>	Anything is delicious?
	Anything is ∼?	Anything is good?
		Anything is hard?
		Anything is not good?
		Anything is soft?
		Anything is so-so?
	Any have question about American snack?	
	Anyone else?	
	Any question?	
	But it's bitter?	
	It's not good?	
	(II) It's okay?	
	It's sweet?	
	Or no?	
	(III) That's okay?	
one-word	Anyone?	
questions	Okay?	
	Understand?	
	What?	

5. まとめとして

指導技術の高いALTは、中学校で学習するレベルの英語を使用して授業を実践していることが実証された。これは、子どもたちの英語への取り組み方や理解度に好影響を及ぼすのではないだろうか。日本人の担任教諭にとって、英語能力が高ければ高い方が良いことに間違いはないが、高度な英語能力を持っていなくても小学校での英語活動を実践することができることも実証できた。つまり、担任の英語能力は中学校3年間の英語教科書に載っている英語の使用程度でよく、それは、別のレベルでいえば、「英検3級程度」の英語能力を持っていれば良いことになる。

各市町村区の教育委員会のなすべきことは、小学校の教員に基本的な英語能力を復習させることである。そのためにも、ALTを教員のためにもっと活用することを考えて行くと良いのではないだろうか。

引用文献

ベネッセ教育研究開発センター (2007) 『第1回小学校英語に関する基本調査 (教員調査) 報告書』東京:ベネッセ・コーポレーション

東悦子(2009)「小学校外国語活動指導者が抱く不安とその要因」『中部地区英語教育学会紀要』 開隆堂出版(編)(2005)『中学で学ぶ英語』東京:開隆堂(非売品)

文部科学省(2008a)『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東京:東洋館出版社

文部科学省(2008b)『小学校学習指導要領』

(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2010/10/20/1261037_12.pdf より引用) 2010年11月にダウンロード。

沼津市教育委員会(2006)言語教育推進事業

(http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisei/kyouiku/kyouiku/numazushi/kongo.htm) 2010 年11月にダウンロード。

沼津市立浮島小学校(編)(2010a)『平成18年度~22年度 沼津市言語教育拠点推進校 英語 の時間 公開授業』

沼津市立浮島小学校(編)(2010b) DVD『平成22年 6月17日 浮島小学校 英語の時間』(非売品)